

# 三酔人経綸問答

——映画文学人生論

中江兆民（南海仙漁）（1947-1901）  
三酔人経綸問答1(887) 桑原武雄 島田虔次訳  
民訳契解（1880）  
一年有半（1901）博文館  
続一年有半（1901）博文館

サンピエール一たび萬国平和の説を唱へし  
よりジャン・ジャック之を頌賛し。

おそまきながら中江兆民の『三酔人経綸問答』  
を読んでみた。兆民はジャン・ジャック・ルソー  
を日本へ紹介して自由民権運動の理論的指導者と  
なり、東洋のルソーと呼ばれた。明治時代の啓蒙  
思想家の一人である。

サンピエール一たび萬国平和の説を 唱へし  
より、ジャン・ジャック之を頌賛し、カントに  
至り益々此説を拡充して、理学精粹の体裁に合  
せしむることを得たり。

なんとか意味はつかめるが、読みにくい。桑原  
武雄、島田虔次の現代語訳は次の通り。

サンピエールが一たび世界平和の説をととなえ  
ていらい、ジャン・ジャックがこれをたたえ、  
カントになるとますますこの説を展開して、そ  
れが哲学にふさわしい純理的性格を持つことが  
できたわけです。

サンピエールはスペイン継承戦争（一七〇一—  
一七一四）終結のためユトレヒト会議に出席し、  
『ヨーロッパ恒久平和』全三巻を著した人。ジャ  
ン・ジャック・ルソーは『民約論』の著者、カン  
トは『永久平和論』の著者として知られる。



# 三酔人経綸問答

映画文学人生論

このような戦争と平和の問題などについて酒を飲みながら論じるのが三酔人だ。

南海先生は生まれつき酒が大好き、また政治を論じるのが大好きという人物。ある日、独酌でいい気持ちになつているところへ、二人の客がブランデー持参でやってきた。洋学紳士（紳士君）と豪傑君である。

紳士君は、サンピエールやルソーやカントの平和論を紹介し、民主制による武装放棄や非戦論などの理想論を展開する。攻撃は道義に反するが、防衛は道義にかなつていふという考えは各人の持つ正当防衛の権利を国家にあてはめようとするものだが、それでよいか。殺人は悪いことだ。人が自分を殺すことがあつても、自分は人を殺してはいけないのではないか。

それに対して、「きみは気がくるつたのじゃなにか」と豪傑君はいふ。「大の男が百万人。千万人あつまつて国をつくつていながら、じつと侵略者の奪うにまかせて、あえて抵抗しないなどは、気がい沙汰ではないか」。

豪傑君は戦争によつてガンをとり除くべきだと主張する。国中の壮丁をすつかりあつめて、隣の老大国にゆき、これをわが領土とすることによつて強国となり、西洋諸国との競争にうって出るべきだと勇ましい。百三十年後の現在、国会では三酔人と似たような議論が行われている。

虚無海上一虚舟

中江兆民（『一年有半』）